

いどい



仁淀川町
広報

10

2006年
月号 No.15



9月18日、池川中学校の体育祭が行われました

白

初

熱

秋

主な 内容

- 2・3.....特集・生涯現役!輝く高齢者
- 4.....桂木希さん横溝正史賞受賞
- 5.....金婚おめでとうございます
- 6.....防災訓練
- 8・9.....平成17年度決算
- 12.....きちんと知ろう地デジ

生涯現役！輝く高齢者

まだまだ若い者には負けん。生きがいのある毎日は素晴らしい

鎌倉信夫さん、靖子さん



鎌倉信夫さん、靖子さん
以前は年に三回養蚕を行っていましたが、今は五月と九月の二回に回数減らしているとのこと。朝、日が当たらないうちに桑を取ってくる。それから葉をちぎって蚕にやる。人間と同じで朝、昼、晩の三回。成長するにつれて食べる量も増えてくる。蚕がこ

県内の養蚕農家は五戸
下北川の鎌倉信夫さん（七十九歳）、靖子さん（七十四歳）ご夫婦は、三十年ほど前から養蚕を続けています。県内の養蚕農家は五戸（平成十七年度）しかなく、産業とし

て消えるのではないかと聞いています。

養蚕は重労働

今も養蚕を続けている理由について「親がやりよったので道具があるし、桑畑を処分するのも難しい。桑をほかの作物に変えるにも、今はサルやイノシシが出るようになって何もできんけねえ。それに生き物を相手にする仕事はええねえ」と話す鎌倉さん。



1日3回蚕に桑を与えます

ここから一週間ぐらいしてから七、八日間が一番忙しい。とにかく取りに行く桑の量が多くなる。このときは誰かを雇いたいと思うけれど、それでは合わないで、二人で何とか頑張りよう」出荷するまでの二十数日間、蚕室の温度管理にも気をつけなければならず、体力も気も使う、重労働であるということが分かりました。

楽しみがあるから続けられる
靖子さんは「楽しみは二人で晩酌すること。それから二人で遊びに出かけること。旅行も好き。それがあるから、仕事も頑張れる。二人がやれるうちは蚕も続けたいねえ」とほほ笑んでいました。

消えゆく養蚕 守り続けて三十年

九月十八日は「多年にわたり、社会に尽くしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う」ことを目的とした敬老の日でした。
しかし「まだまだ老人とは呼ばれたくない」と、今も現役で仕事や趣味に生きがいを持って輝いている高齢者も多いのではないのでしょうか。
今回は、県内でも珍しくなった養蚕を長年続けられているご夫婦と、若者と一緒にバレーボールを楽しんでいる女性をご紹介します。

バレーボールで若々しい心と体

始めたのは三十年前

中川歌子さん（七十歳・用居）は、三十年ほど前にバレーボールを始めました。きっかけは「みんなのできること」というと、その当時はソフトボールかバレーボールしかなかったから」と言います。

以来、練習を続け、町内のバレーボール大会などに「用居チーム」のメンバーとして出場し活躍しています。今年は残念ながら、メンバー不足のため大会には出ることができませんでしたが「人さえおって、試合に出るいうたら行きたいねえ」とやる気満々です。



レシーブする中川さん

現在も、用居集いの館横の体育館で毎週土曜日の夜間に練習をしています。

九月十六日の練習には中学生や高校生など十人余りが集まりました。

中川さんは、準備体操で腕立て伏せや腹筋運動をし、年齢を感じさせない体力をいきなり見せてくれました。続いて円陣パス、五人対五人の試合と中学生と同じペースで約二時間汗を流しました。

和やかな雰囲気の中での練習、楽しそうにボールを追う中川さん。サーブもレシーブもほとんどミスがないのは驚かされました。



練習に集まった皆さん。前列左端が中川さん

「歌子さんは若いときと全然変わらん。元気なねえ」と一緒に練習している人たちは口をそろえて言います。「体を動かすのが好き。疲れちよつても、バレーの練習に来ると元気になる。みんなとワイワイできるのが楽しい」とおっしゃる中川さん。「いつまでも好きなバレーを続けたい」と、笑顔で締めくくってくださいました。

いつまでもお元気で 一敬老会一

今年も9月中旬に、各地区で長寿を祝う敬老会が開かれました。

歌や踊りなど趣向を凝らした温かいもてなしに、出席者は大喜びで楽しい1日を過ごしました。

なお、台風の接近により、残念ながら中止となった地区もありました。



名野川地区敬老会

仁淀川町森（湯ノ川）出身の桂木希さん（ペンネーム）が、長編小説「ユグドラジルの覇者」で「第二十回横溝正史ミステリ大賞」を受賞されました。

おめでとう！桂木 希さん

横溝正史ミステリ大賞受賞



森出身 初の長編小説で栄誉

桂木さんについて、現在も湯ノ川にお住まいのご両親、楠本良誓さん、昭子さんにお話を伺いました。

桂木さんは昭和三十六年、仁淀村森（湯ノ川下）で生まれ、中学校卒業まで在住、その後進学のため村外に出られました。現在は神戸市に在住し、コンピューターエンジニアとして活躍されています。

昭子さんは「希は子どものときから本当に本が好きでした。学生時代には、外国のミステリをあさって読んでいましたねえ。寝ころんで本を読んでいる姿をよく思い出します。」

略 歴

昭和36年	湯ノ川下で出生
昭和47年 3 月	森小学校（現・別府小学校）卒業
昭和50年 3 月	仁淀組合立仁淀中学校卒業
昭和53年 3 月	高知高等学校卒業
昭和57年 3 月	大阪工業大学経営工学科卒業
昭和57年 4 月～	コンピューターエンジニアとして活躍

でも今、小説を書くなんて、つゆ思いもしませんでした」と桂木さんの子どものころを振り返っていました。

受賞が発表されると、ご両親の家には友達がお祝いに駆けつけてくれたり、小説の感想文を送ってくれたり「仁淀から小説家がデビューした!」と、桂木さんご本人よりも、周りの方が喜んでるようです。

次回作については「もう一つ書きたいテーマがある、とは言っていました、仕事のかたわら書くのですから、いつになるでしょうか」とのことでした。

横溝正史ミステリ大賞

角川書店の設けた文学賞で、探偵小説家、横溝正史にちなみ、昭和55（1980）年にミステリ作家を発掘しようと設けられた賞。大賞受賞者には金田一耕助像と副賞が贈呈されます。

選考委員は綾辻行人、北村薫・桐野夏生・板東真砂子の4氏。第1回受賞作品は齋藤漣氏の「この子の七つのお祝いに」で、今回が26回目になります。

受賞作「ユグドラジルの覇者」

この作品は、世界中に網を張ったインターネットの世界を「世界樹（ユグドラジル）」に見立て、その世界で覇権を争う人間たちの生々しい戦いを描いた国際経済小説です。

仕事柄、海外出張の多い桂木さん、この小説も出張先で構想を練り平成十一（一九九九）年ごろから書き始めたそうです。忙しい仕事の合間に書き続け、完成したのは昨年。初めて書いた長編小説が、百九十三の応募作品の中から大賞に選ばれました。



※ユグドラジル（世界樹）北欧神話に登場する「世界」を体現する巨大な木。

金婚おめでとらございます



第四十九回金婚夫婦祝福式典
(主催・高知新聞社ほか)が九月
一日、高知市の三翠園で行われ、
町からも十二組のご夫婦が出席さ
れました。

式では「頑張りの五十年」と題
したビデオの上映もあり、戦後の
復興の様子や台風災害などの映像
に、感慨深げに見入っていました。
長い歲月、苦楽を共に助け合っ
てこられたご夫婦、いつまでもお
幸せでありますようにお祈りしま
す。

式典出席者

市川 忠行・ツタヲ (岩屋)	井上 兼春・好子 (桧谷)	大黒 懋・春恵 (上川渡下)	尾崎 行雄・秋子 (蔵谷)	鎌倉 創・シゲ子 (正ノ石)	鎌倉 義久・トモコ (下北川)	品原 敏夫・淳子 (正ノ石)	高木 哲彦・時子 (東古城山)	佃 利栄・安尾 (戸立)	農本 利男・久子 (下川渡下)	藤野 嘉秋・キヨカ (二ノ滝)	藤原 徳幸・定子 (下土居)
----------------	---------------	----------------	---------------	----------------	-----------------	----------------	-----------------	--------------	-----------------	-----------------	----------------

草刈り名人「池川八人会」の皆さんありがとう

「草が生えてきたねえ。今年も刈りに行こうか」
昨年、ボランティアで池川自然学園の草刈りをし
てくれた、草刈り名人「池川八人会」(元池川消防
団操法メンバー)が、今年も8月27日、厳しい残
暑の中、4時間余り草刈りに取り組んでくれまし
た。留学生の帰園時期で見学者もあり、本当にあ
りがたく思いました。

草刈り前は真夏の景色だったのに、草刈りが終
わると学園のみならず、身も心も秋風が抜けるよ
うな涼しい気分になりました。

自分のことのように取り組んでくださった方々
の姿勢に感謝します。

池川自然学園

池川自然学園でボランティア



池川自然学園長と池川八人会の皆さん

地域のみんなで自主防災

防災週間（八月三十日～九月五日）に合わせ、九月三日に「地域のみんなで自主防災」と銘打った訓練が県下一斉に行われました。

町においても、高吾北消防署や町消防団、地域の住民、行政関係者ら延べ約五百四十人が参加して、狩山（池川）、森山（吾川）、川渡（仁淀）の三地域で一斉に、南海地震を想定した避難や消火活動など、本番さながらに緊迫した訓練が行われました。

本番さながらに 防災訓練

午前八時に地震が発生、土砂災害、橋の崩壊により各地域が孤立し、電話、電氣も寸断され、消火無線だけが使用できるとの想定で、まず役場本庁に災害対策本部が設置されました。

災害対策本部から住民に避



負傷者を救助する訓練（川渡）

難勧告を発令、消防団員が住民を避難所に誘導したり、負傷者を担架や車いすなどで救助したりしました。避難所では、消防署員から負傷者に対する応急処置の方法などについて、指導を受けました。続いて地震により火災が発生、消火栓・防火水槽が使えない設定で、消防団員が水利から千メートル前後離れた火災現場まで、小型ポンプによる中継を行い消火活動をしました。また各地域で婦人防火クラブなどが早朝から炊き出し訓練を行い、おにぎり、豚汁な



放水訓練（狩山）

応急処置について指導を受ける住民ら（森山）



地震体験で防災意識を

いつ起きても不思議でないといわれている大地震。起震車で大地震の揺れを体験することによって、防災意識を持ってもらおうと、8月29日、別府小学校運動場で防災学習講座「起震車体験」（主催・教育委員会）が行われました。

地域の住民、夏休み中の児童や保護者など約80人が地震を体験し、「心構えをしても揺れると怖かった。実際に起きたときはどうなるかと不安」「練習と分かっているけど恐怖を感じた。これを機に家の防災を考え直します」などの感想が聞かれました。

今後、防災学習講座として11月に長者小学校運動場で「起震車体験」を、また講師を招いて防災についての講演会（時期未定）も予定しています。

どが訓練後の昼食として出されました。今後、南海地震や台風などによる災害で、地域における大きな役割を担うのは、消防団と地元自主防災組織になります。

町内においても、各地域の

自主防災組織の立ち上げ百分百を目指し、勉強会などを行っていますので、関心のある地区は総務課までご連絡ください。

総務課 ☎ 35・0111

池川こんにゃくは私らが作りゆつよ！

スーパーマーケットなどでおなじみの、手作りこんにゃく。「池川地場産品加工組合」（代表・三浦栄子さん）の6人が20年以上前から作っています。

現在は毎週火・金・日曜日の3日間、平均して1日約800玉を製造しています。池川地区のこんにゃく芋を使って、昔ながらの作り方を守り、店への配達も行っている生産組合。

「6人が仲良う仕事をしゅう。生活の糧にもなるしねえ。真夏の作業や、台風、雪の日の配達には苦労する。けんど、お客さんの『おいしい』という言葉が聞くとうれしねえ。元気で続けていきたい。夢？そうやねえ、昔ながらのこんにゃく作りの技術を、若い人に引き継いでほしい」と忙しい作業の手を止めて話をしてくださいました。



私たちはこれから！おいしいニラを作りたい！

井上定光さん、幸子さんご夫婦は、一反の畑でニラを栽培しており、今年から出荷することになりました。

丹精込めて育てたニラは、青々と畑一面に広がり、これを刈り取り、ご夫婦で選別して農協に出荷します。

「病気がついたらいかんが、成長する時期にちょうど天候もよかったので、割合きれいにできたねえ」と定光さんは満足そうでした。

「用居のニラ」として、コンニャクに負けないくらい有名なようになるよう、期待しています。



集落見聞録

(第13回)

もちい 用居



用居集落

用居は池川総合支所から車で約15分。8月31日現在、38世帯、70人の集落です。

現在区長をされている三浦利勝さんは「昭和30年代には人口が400人を超え、ミツマタやタバコ、養蚕や木炭などの産業があった。集落内には旅館やパチンコ店、映画館もあってにぎわいよった。その後、産業がふるわなくなり、仕事を求めて、集落外、町外へと出て行く人が増え、人が減ってきた」と昔を懐かしそうに振り返っていました。



三浦 利勝さん

